



「器械だし」は 業務か？看護か？

手術中に器械を渡す看護師は「器械だし看護師」と呼ばれています。器械を渡すだけ？患者さんとしゃべることもなく、触れる事もなく、ただ器械を触る仕事って、看護ではなく、業務なんじゃないの？という、声が聞かれることもあります。今回は「器械だし看護」を紹介し、その答えを考えてみたいと思います。

器械だしナースはジェネラリスト！

当院は総合病院であり、外科から器械だしを始め、形成、産婦人科、泌尿器科・・・と進んで最終的には心臓血管外科までの当院の手術すべての介助を行います。病棟では診療科別の看護が行われていますが、手術室では広範囲の知識が必要です、

対応能力はピカイチ！

全診療科、すべての手術手技、器械をだいたい覚えています。あやふやな所は術前に手術手順を確認して細かい所を覚えなおします。手術の種類は大まかに種類くらいありますが、それらを手術室看護師は記憶しています。



体力勝負！

長い手術になると、休憩の交代者が来てくれますが、夜間休日や、交代が難しい手術については休憩があまり取れない時もあります。でも、手術中は看護師も緊張しているので、おなかもすかないし、トイレもいきたくないと思わない事が多いです。

実はいろいろ・・・！？

器械だし担当は、全国的にみると看護師だけではなく、医師（研修医）や、臨床工学士、看護補助者、専門の業者が器械だしを担当している施設もあります。当院では基本的に看護師が担当しています。

器械だして結局「看護」なの？

前日から患者さまの情報を基に、その手術に応じた器械を準備します。手術中は器械を手術の手順通り正確に医師に手渡します。器械だし看護師が手術を理解していなければ手術は止まりますし、手術時間がどんどん延長します。手術が正確に早く終了する事に器械だし看護師は大きく関わっています。



手術認定ナースの「器械だし」について思う事

器械だしが「看護」だと思えるようになるには、少々時間がかかります。新人の頃は手術が分からず医師に怒られるのが常。わからない手術、怖い医師、先輩・・・その中でも、毎日必死に手術にくらいついていると、ある時自分が患者さまの手術に役立っているという実感が持てる時がやってきます。そうになると「業務」が「看護」にかわり新しい世界が見えてくるのだと思います。

